

市民合意なしに(仮称)厚生産業会館建設、福祉施設は民間譲渡で責任放棄 日本共産党議員団の平良木議員が新年度一般会計予算など39議案で反対討論

3月定例会議会最終日の3月25日、議案の採決に先立つ討論では、日本共産党議員団を代表して平良木哲也議員(写真)が登壇、上越市新年度一般会計予算など39議案に反対する理由をのべました。

それぞれの議案についてふれる前に同議員は、「これまで積み重ねてきた行政としてのサービスのあり方を根底から大きく変え、市民が利用してきた数多くの施設の廃止や民間譲渡、行政の窓口の縮小など、業務に大なたを振るう行政のリストラといわざるを得ない施策が数多く盛り込まれているというのが、新年度予算の特徴」「地方交付税の削減を、市民のくらしを守る立場から絶対に許さないという姿勢を国に対して明確に示し、一方では、不要不急な箱物は十分な市民合意ができてからにするという立場を取ることが、求められているのではないでしようか」と訴えました。



そのうえで
新年度一般会
計予算につい
ては、6点に
わたって問題
点を指摘しま
した。
1つは、総
合事務所の産
業建設グルー
プの集約を試
行する体制を
前提にした予
算になってい
る点です。

2点目は、小中学校における給食の民営化路線がひきつづき拡大強化されたことです。
3点目は、公の施設の再配置の具体的な実施の一つとして予算化されている、高齢者の福祉施設などの廃止ないしは民間譲渡のもとになる予算措置です。

4点目は、(仮称)厚生産業会館の建設事業を、十分な市民合意がないまま押し進めようとしている点です。

5点目は、一方で大規模な建設事業が計画されている反面、暮らしてに密着した生活道路など、市道の改良事業は、相変わらず市民要望のごく一部しか実施しないという点です。

6点目は、同和問題は、すでに終結したというのが全国的な共通認識であり、国の方針となつているにもかかわらず、同和対策予算が依然として計上されている点です。

そのほか、緊急シヨートステイ限度額超過額に対する助成制度で、極端な所得制限を設けた点、介護保険サービス利用者負担金等の助成対象の所得制限を強化した点、公立保育園では、担任保育士ですら多くの非正規職員に依拠している点など、見過ごすことのできない点がある点などにもふれました。

介護保険、問われているのは、現在の負担をどうするかだ

新年度上越市介護保険特別会計予算についての討論で、平良木議員は、「昨年の約3割にもなる介護保険料の値上げは、結果として、全国で高い方から3番目、市としては全国最高の保険料となった。市民の間からは、『とにかく高い保険料を何とかしてくれ』という声が渦巻

いている。介護施設が不足していることと、介護認定率が高いことなど、高額保険料の原因の分析は進んでおり、その対策も計画的に実行されていることは承知しているが、問われているのは、現在の負担をどうするかという点だ。抜本的な対策を講じて、保険料の引き下げに取り組みべきだ」とのべました。

また、こうした高額な保険料にもかかわらず、介護施設は全く不十分であり、依然として待機者は増加の一途をたどっていることについてもふれました。平良木議員は、「新年度は、認知症対応型グループホーム入所者への助成制度が新設され、特養の入所待機者にとつても積極的な取り組みであると考えるが、それでも1000人をはるかに超える待機者の解消にはほど遠いのが現状だ。この問題点の解消に向けた抜本的な取り組みが必要だ」と強調しました。



山間部ではまだ2桁近い残雪があるところもあります。写真は上越市大島区板山にて3月24日撮影。



【コシノコバイモ】久しぶりです、この花に出合ったのは。ユリ科の植物で、和名は「越の小貝母」と書きます。可憐な野の花で、この花を自宅で増やしている人もいます。吉川区の山間部で撮影。

春よ来い 第二四七回 ふんばり桜

私の顔を見ると、先生は真ん中のコーナーへと案内して下さいました。展示の順番を無視して何故いきなりそこへと思ったのですが、作品を見てすぐにわかりました。昨年、大きな地滑り被害の出た板倉区国川の絵があったからです。

案内して下さった先生は上越高校の大口満先生です。毎年、この時期に地元などのギャラリーで絵の個展を開いておられます。昨年の秋だったでしょうが、国川在住のお父さんの昭治さん、満さん、長女の萌さん、この三人の作品を展示した親子孫の三代展があり、それを観に行つたことから案内をいただき、出かけてきました。

「地滑り災害を描く」というコーナーの左側には水彩画が縦に二つ並んでいました。地滑りが発生してから五回ほど、私が現地に入つていたことを大口先生がご存じだったのかどうかはわかりませんが、先生は地滑りと描かれた絵について詳しく語ってくださいました。

水彩画は地滑りから約一カ月後に描かれたものでした。上の絵の中央部には押しつぶされたり、傾いたりしたいくつかの家が描かれていて、その周りを遠くの杉の林や土手の草が囲んでいます。野の草の黄緑や桜のピンクは、春になったばかりということを教えてくれます。

絵を観たときに私が思い出したのは、地滑りが発生した翌日のことでした。地滑りが起きて初めて現場に行つた時、私の目の前にあつた建物は、一年近く、毎週のように通つた長嶺さんの住宅でした。時どき、「ググツ」とか「バリツ」という不気味な音を出し、雪崩に押されてきました。早く止まってほしい、そう思いながら、家族の人も、近所の人も、仲間の人もみんな心配そうに見守っていました。

当時、何度か現場に足を運びましたが、まだ雪が相当残つていて、緑色と言えば、杉の木の葉っぱくらいしか目に入っていませんでした。水彩画のような黄緑やピンク色の景色を見ることができたのは、おそらく四月に入つてからです。この頃は、丁度、市議選と重なつていて、現場の様子を見ることはできませんでした。それだけに描かれた景色は私の眼には新鮮に映りました。

印象的だったのは下の絵です。「ふんばり桜」という題名がついていました。絵の真ん中には、見てくれといわんばかりに咲いているピンク色の桜がありました。地滑りで押し倒され、家とともに斜めになりながらも花の色はじつに鮮やかです。この桜についての先生の説明を聞いた時、「これは素敵な話だな」と思いました。この桜の持ち主である大口勲雄さんは、「桜は今回が最後だと悟つたのか、いままでになくらい見事な花をつけた」とおっしゃつたそうですが、まさに「ふんばり桜」でした。これが被災者を励ましたことは言うまでもありません。

大口先生は二つの絵を語る時に、手作りのパンフレットを持ってきて説明して下さいました。あとで、このパンフレットを読んでびっくりしました。パンフレットの中には国川の被災した桜と同じようにたいへんな目に遭いながら、絵画で自らの資質、能力を全面開花させた生徒や卒業生などの体験がいくつも書かれていたからです。それらを読みながら、私はハツとしました。大口先生が絵を描くことを通して目指しておられることのひとつは、被災した桜のような「ふんばり」なのではないかと。

地滑りから二度目の春がやってきた国川。「ふんばり桜」はすでに切り倒されてありませんが、絵には他にも桜の木が描かれていました。ぜひ見てみたいと思います。

創業祭で異業種の人たちが楽しい交流

4月1日の夕方、柿崎区で行われた(有)朝日池総合農場の創業祭に初めて参加させていただきました。

春の農作業が本格化する前に、農場を支えている人たち、応援してい

る人たちに集ってもらい、飲み、しゃべり、歌うという楽しい集いです。30人を超える人たちが集まりました。職員の歓送迎会も兼ねた集いには若い人がたくさん参加していて、その人たちの動きを見ているだけでうれしくなります。

集まった人たちの中には、吉川区や大潟区など市内各地からやってきた農業生産法

人、専業農家の人たち、さらには同農場と取引のある異業種の人たちもいて、とても有意義な交流ができました。

会では、ソフィーの山崎社長さん、はるかさん、歌声喫茶をやっている佐藤洋治さんなど素敵な人たちとの出会いもありました。写真は井上陽水の「夢の中へ」を歌う佐藤洋治さんと参加者の皆さんです。とても楽しい集いでした。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	3月27日(水)	4月3日(水)
上越南消防署	0.033	0.033
上越北消防署	0.060	0.050
新井消防署	0.050	0.050
頸北消防署	0.043	0.053
頸南消防署	0.037	0.057
東頸消防署	0.043	0.050
高士分遣所	0.050	0.053
名立分遣所	0.060	0.063

